

表1 周知の縄文時代の遺跡

1	鬼ガ崎遺跡	上対馬町	鰐浦鬼ヶ崎	遺物包含地	山林	縄・弥・古・近世	註1
2	シレンナー遺跡	上対馬町	豊シレイ	遺物包含地	山林・海岸	縄文中期以降	註2
3	泉遺跡	上対馬町	泉在所	墳墓	山林	縄・弥	
4	五根緒	上対馬町	五根緒字平山	遺物包含地	畑地	縄	
5	古小鹿遺跡	上対馬町	小鹿	遺物包含地	宅地	縄	
6	コウブリヤ洞窟	上県町	佐護コサヤ北里	洞窟・岩陰	山林	縄・古	
7	志多留遺跡	上県町	志多留	遺物包含地	畑地	縄・弥	
8	志多留貝塚	上県町	志多留	貝塚	宅地・畑地	縄・弥	
9	越高遺跡	上県町	越高字孫坊採	遺物包含地	畑地	縄	県史跡
10	夫婦石遺跡	上県町	久原	遺物包含地	海岸	縄	
11	向サエ遺跡	上県町	久原	遺物包含地	学校跡	縄	
12	吉田遺跡	峰町	吉田字吉田古川	遺物包含地	畑地	縄・弥	
13	狩尾遺跡	峰町	狩尾	遺物包含地	畑地	縄・古・中	
14	佐賀遺跡	峰町	佐賀	遺物包含地	畑地	縄・弥・古・古代・近	
15	佐賀貝塚	峰町	佐賀	遺物包含地・貝塚	宅地	縄	
16	ヌカシ遺跡	豊玉町	廻字ヌカシ	遺物包含地	畑地	縄	
17	西加藤遺跡	豊玉町	嵯峨字加藤	遺物包含地	宅地・畑地	縄	
18	堂ノ内遺跡	豊玉町	仁位字清玄寺堂ノ内	墳墓(弥生時代)	畑地	縄・弥	
19	住吉平貝塚	豊玉町	曾字前原住吉	貝塚	宅地・畑地	縄	
20	住吉橋下遺跡	美津島町	鴨居瀬字住吉	遺物包含地	道路	縄	
21	大船越遺跡	美津島町	大船越	遺物包含地・墳墓	畑地	縄・弥	
22	白蓮江第1遺跡	美津島町	竹敷字シレエ	墳墓	岬	縄・弥・古	
23	阿須遺跡	巖原町	巖原北里字滝ノサエ	遺物包含地	山林	縄	
24	堀田サエ遺跡	巖原町	久田字丸隈ノ下	遺物包含地	畑地	縄	
25	久田遺跡	巖原町	久田字ヲサル淵	遺物包含地	荒蕪地	縄・弥	
26	安神遺跡	巖原町	安神	遺物包含地	畑地	縄	
27	奥浅藻遺跡	巖原町	豆酸竜良山	遺物包含地	畑地	縄・弥・古	
28	下原遺跡	巖原町	檜根字経塚	遺物包含地	畑地	縄・弥・古	
29	在家遺跡	巖原町	久根田舎字陽在家	遺物包含地	畑地	縄・弥	
30	小茂田遺跡	巖原町	小茂田字ヒツキ	遺物包含地	畑地	縄・弥・古	

表2 新規発見の縄文時代の遺跡

No.	遺跡名	所在地		種別	立地	時代	備考
1	白浜崎	上対馬町	大浦白浜崎	遺物包含地	山林	縄・弥・古～現	
2	鬼ガ崎遺跡	上対馬町	鰐浦鬼ヶ崎	遺物包含地	山林	縄・弥・古・近世	註1
3	ヒロセ	上対馬町	鰐浦瀧浜	遺物包含地	畑地・山林	縄・弥・古～現	
4	シレンナー遺跡	上対馬町	豊シレイ	遺物包含地	山林	縄文中期以降	註2
5	不通浜～若宮神社西	上対馬町	豊	遺物包含地	海岸・山林	縄・弥・古墳	
6	若宮神社	上対馬町	豊若宮	遺物包含地	岬	縄・弥・古～中	
7	若宮神社東～深浦	上対馬町	豊	遺物包含地	山林	縄・弥・古墳	
8	厚崎	上対馬町	豊	遺物包含地	岬・山林	縄・弥・古	
9	舌崎	上対馬町	豊	遺物包含地	山林・海岸	?	
10	ハゲ島	上対馬町	大増	遺物包含地・墳墓	山林・海岸	縄・弥・古	
11	唐舟志西海岸	上対馬町	唐舟志	遺物包含地	山林・海岸	縄・弥	
12	五根緒赤崎	上対馬町	五根緒赤崎	遺物包含地	山林	縄	
13	オオセ	上県町	西津屋	遺物包含地	岬	縄・弥・中・近	
14	大浦	上県町	佐須奈大浦	遺物包含地	畑地・山林	縄・弥	
15	刈生	上県町	志多留刈生	遺物包含地	海岸・畑地	縄・弥・中・近・現	
16	立岩	上県町	女連立ノ根	遺物包含地	海岸・畑地	縄・弥	
17	ウシツキ	峰町	青海ウシツキ	遺物包含地	海岸・畑地	縄・弥	
18	和保海岸	峰町	木坂和保	遺物包含地	海岸・畑地	縄・弥	
19	多田越遺跡	豊玉町	唐洲字多田越	遺物包含地	海岸	縄	註3
20	クノエ	巖原町	椎根花島	遺物包含地	山林	縄	
21	西表	巖原町	豆酸西表	遺物包含地	海岸・畑地	縄・弥	

凡例 縄文-縄 弥生-弥 古墳-古 古代-古代 中世-中 近世-近 近代-近代 現代-現とする

註1:「鬼ヶ崎遺跡」は2018年

註2:「シレンナー遺跡」は2016年に発見。

両遺跡とも周知の遺跡、新規発見の遺跡一覧表に記載しているが、地図では新規発見の遺跡としている。

註3:新規発見の19「多田越遺跡」は東貴之氏が踏査報告されているが、遺跡登録されていないため新規発見の遺跡とした。

周知の遺跡名については『長崎県遺跡地図』収録の名称を使用した。

新規発見の遺跡はNO.2「鬼ヶ崎遺跡」、NO.4「シレンナー遺跡」の他は仮称である。

### 3. 新規発見の遺跡について

#### (1) 新規発見遺跡番号2「鬼ガ崎遺跡」

##### ① 鬼ガ浦

上対馬町鰐浦の西に位置し鬼ガ浦・鬼ガ崎・ツツミゼで構成される。平成30年4月11日(2018)長崎が上対馬町鰐浦<sup>ヤビツ</sup>矢櫃から海岸沿いに西へ進み、鬼ガ浦の畑地で黒曜石製鎌・頁岩製石器・陶質土器を表面採集した。4月12日、通報を受けた調査員の阿比留伴次氏が現地へ赴き遺物を確認後、鬼ガ崎において黒曜石製品、土師器ほかを確認した。4月29日、対馬市教育委員会文化財課職員(当時)尾上博一氏、阿比留伴次氏、長崎章、長崎菜々子が基礎調査を行った。遺跡は鬼ガ崎と鬼ガ浦周辺の広い範囲に及ぶ。岬先端の標高5～10<sup>m</sup>付近では赤い砂岩礫が数カ所に見られ、一部に人が積んだような跡がある。原始・古代の狼煙場か灯明ではないかと考えている。

この遺跡から対馬北端の鰐浦周辺、航空自衛隊が所在する海栗島、本島北端の久ノ下崎、南西に上県町竿崎が見え、西に朝鮮半島を見ることが出来る。鬼ガ崎東側には北西の季節風を避けるように岬上部まで段々畑跡が見られる。耕作地がすくない対馬はどこでも見られるが、海岸にあった遺跡は開墾により削平・破壊されているものが多い。また、小さな入り江を埋め立てて耕作地を作るときに近くの山から土が採られている。鬼ガ浦も東西の山から土を採り耕作地が作られている。鬼ガ浦における水流は西に偏る。鬼ガ浦(写真1, 2, 3)の出土遺物は黒曜石製鎌(写真4-1, 2, 3)、黒曜石剥片(写真4-4)・頁岩製スクレイパー・陶質土器と須恵器(写真4-5, 6, 7, 8, 9)・砂岩製石皿・砂岩製凹石である。特筆すべきは(写真4-3)が磨製石鎌とみられることである(対馬市教育委員会蔵)。

鬼ガ崎の出土遺物は黒曜石製鎌・黒曜石剥片・碎片・頁岩製スクレイパー・金属製品・陶質土器・須恵器・土師器である(写真7～9)サヌカイト製石器は見つかっていないが、いずれ見つかるかと考えている。長崎菜々子がおこなった黒曜石の産地推定(表3・4)によると、殆どが佐賀県伊万里市の腰岳系であったが、2個が針尾I群の分析結果を得ている。後日、長崎が鬼ガ崎南西側を踏査したところ、貝塚と陶器、銅器を表採し報告した。これにより鬼ヶ崎遺跡は南西側の海岸までが遺跡範囲となった。ドローンによる遺跡写真は、長崎の友人である諫早市在住の早瀬順一氏が撮影したものである(写真12)



写真1 鬼崎遺跡東の鬼ガ浦遠景



写真2 鬼ガ浦の堤防



写真3 鬼ガ浦の様相 南西から北東の海を望む

シカとイノシシの食害で植物が消滅し表土が露出・流失している。周囲に樹木の立ち枯れが見られる。昭和の40年代まで麦やサツマイモが作られていた。

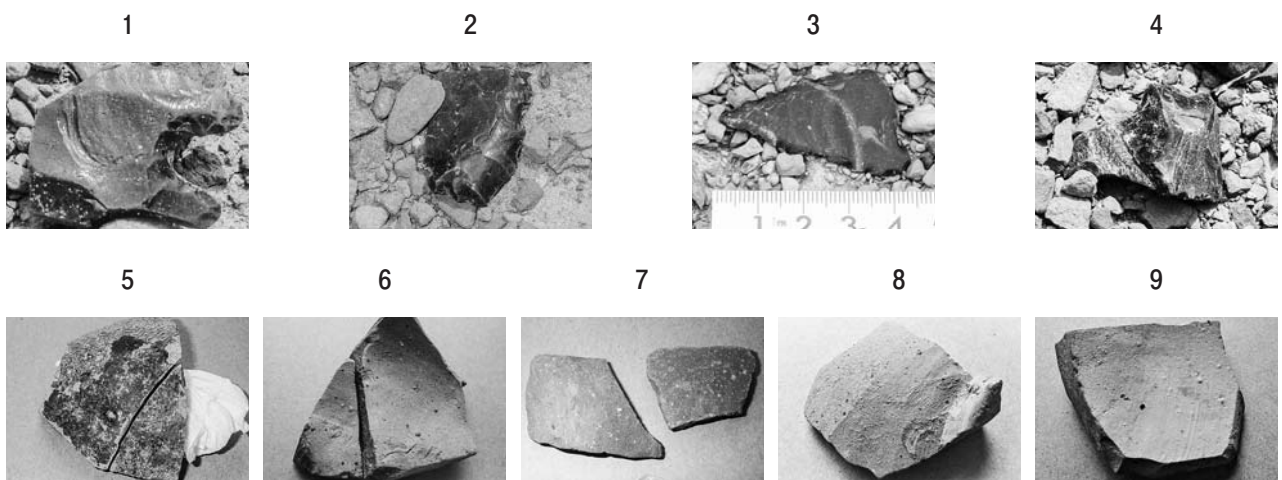


写真4 鬼ガ浦の遺物

## ② 鬼ガ崎

写真5は鬼ガ崎先端付近を調査する様子で写真上に見えるのは海栗島。ここで標高10mぐらいである。人物の近くに赤い砂岩礫と砂岩の地山(写真6)が見える。赤い砂岩礫が積まれたような箇所が複数見られる。ここは晴らしがよく、原始・古代の人々が朝鮮半島南部と往き来するための目印、狼煙場か灯明ではないかと考えているが、石積み付近で炭化物は見つかっておらず今後の詳しい調査が待たれる。鬼ガ崎の石製遺物密集地は岬先端から120m付近で標高20mの断崖上である。ここは足の置き場に困るほどの黒曜石製鎌(写真7-1, 2, 3, 4))や黒曜石剥片・碎片、頁岩製スクレイパー(写真7-5)、金属製品(写真8)、陶質土器(写真9)、土師器が確認され記録後採集された。

令和3年（2021）採集した黒曜石は、3個が腰岳系、2個が針尾I群のものとわかった。



写真5 鬼ガ崎の先端付近



写真6 赤い礫の石積み

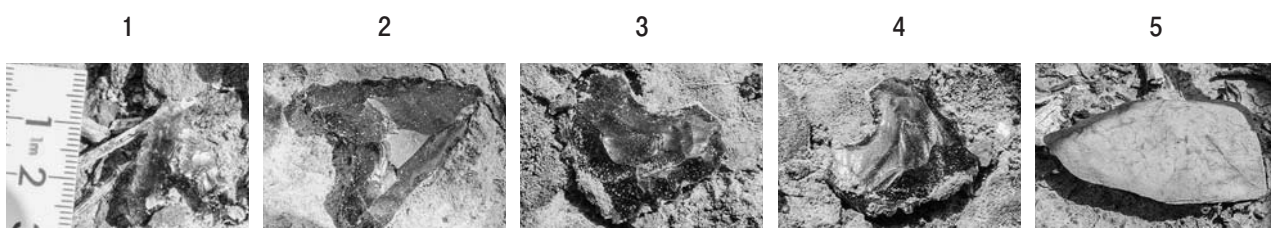


写真7 鬼ガ崎の遺物